

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200115		
法人名	有限会社SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	彦根市鳥居本町1455-7		
自己評価作成日	平成24年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市駒井沢町302番地		
訪問調査日	平成24年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの性格、生活スタイルに合わせ出来る限り家庭での生活に近づけていけるよう、各利用者様及び家族様の意見や気持ちを取り入れ、生活しやすい環境作りを目指して日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「つぼみ」は、彦根の鳥居本にあり、以前からある鳥居本の地区と振興住宅地区からなる地域にある。建物は一般的な家を感じさせ、施設内の雰囲気もアットホームな感じを受ける。利用者は思い思いのおしゃれをして、くつろいでおられ、職員も家族の一員として溶け込んでいる。手づくりの食事が温かみを感じる。施設の方針の特徴は「家庭的な雰囲気づくりと尊敬の念をもって接する」を実践している感じを受ける。協力医の往診は月2回あり、施設の看護職と共に健康管理をされている。盆梅展や彦根城まつり・レストランでの食事など地域外へも全員で出かけるなど気分転換が図られている。地域に密着した事業所を目指して努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご自分の持つておられる力考えを支え、自立支援を行うと共に体調管理には医師との連携を密にとり健康に過ごしていただく。	「自身の力を支える・健康の維持・尊敬の念をもってケアの提供に努める」を目標に、家庭的な雰囲気づくりと日々のケアを職員一同が振り返りながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域運営推進会議の開催によりさまざまな意見をいただき、密着を深めると共に各季節の行事の参加、施設行事への参加依頼にて交流を深める。	地区の夏祭りや文化祭に参加したり、近くの小学校からは運動会に敬老席を設けて招待され参加している。	自治会への加入と交流の推進は、今後の課題として努力されることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での活動に積極的に参加し会話をしていくことで自然と地域も方が認知症を認識していただけよう心がける。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しその都度その時々々の状況に応じた活動問題点を提示し、地域の方々の意見を取り入れ活かしている。	運営推進会議には、地域包括職員・地区の民生委員・本人代表・家族代表・警察官の参加により、2か月に1回開催されている。事業所の取り組みの報告や相談を行い、課題となった事項への取り組みに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問、又は電話連絡により少しでも疑問や聞きたい事があれば問い合わせ、協力関係を築きあげている。	彦根市の地域包括は再編成され、新たな担当の地域包括と連携を密にしていけるよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をする事はなく一人ひとりの性格に合わせて言葉がけ又は行動により拘束することなく集団生活をしていただける工夫をしている。	身体拘束はしていない。施錠もされていない。虐待防止マニュアル・身体拘束ゼロの手引を活用して、職員の研修を半年毎に行っている。職員の言葉や行動で気づきがあった都度、ミーティングで再確認に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に人生の先輩である利用者様に教えていただく気持ちを忘れず常に接しさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方もおられ、理解出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に詳しい説明文を配送し返信文もご用意させていただき、又個々の質問には適切に対応させていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポストを用意させていただき要望、苦情があればすぐに対応できるようにしている。	玄関に投函箱が設置されているが、利用はほとんどない。運営推進会議で客観的な意見を聞くようにしている。利用者は、意見を表明される方が多く、一つ一つ応えられるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の悩み、仕事上の相談には積極的に取組み職員間がスムーズに交流でき仕事しやすい環境作りに努めている。	職員会議は、月1～2回開催し、出された意見は管理者に伝えている。管理者は職員のアイデアを出来る限り取り入れるようにしている。 職員の提案で、利用者に合わせた畳の居室へと変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの意見を聞く時間をもうける事により仕事への考えや思いを聞き施設運営の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には個人に必要なと思われる内容に参加を促し、職員の技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はなかなか行いう機会が持たず、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とお会いし、日頃の生活についてどう感じ過ごされているか、何の課題があるか、又興味等についても聞き安心して日常生活ができるよう配慮する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み及び見学に来られた際、ゆっくりと時間をかけ家族様の思いを聞き施設についても納得していただけるよう話をしていくように心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用として特に対応させていたではない。施設内で出来ることは行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設ではあるが、もうひとつの「家族・家庭」としての気持ちを常に持ち利用者様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡、又利用者様の状況を伝えることにより今をどのように過ごされているかを常に知って頂けるよう連絡を蜜にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達同士の電話連絡、訪問等は時間の許す限り自由にして頂いている。	記録用紙にて、過去の生活史・過ごし方・馴染みの関係を把握している。 家族の協力で外出や実家に帰る・馴染みの人の自由な訪問・希望により電話をかける・手紙のやりとり等、つなぎ役としての支援をしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を替えたり、ゆったりと過ごせるスペースを設ける事により会話がしやすい環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に行かれた方等は、時々面会に行くなどその後の生活についても心配りさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を決め日々の様々な変化に気づけるように月間サマリーにて全員で話し合う機会を設けている。それにより今後の方向性を考えて行く。	入浴や食事等のケア時に発せられた言葉は、本音として、希望が活かせるように記録して申し送り実践に繋げている。家族からは、意向や希望を聞けるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様が分かる範囲で利用者様の年代別生活スタイルがわかるよう用紙を用意し記入していただき、理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の様子を記入し職員全体が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門員、職員、家族、本人個々の思いをまとめ計画書の作成に努めている。	介護計画作成において、本人や家族、職員の意見を聞き取り作成している。介護担当は毎月、サマリーとして状況を記録している。ケアマネジャーはサービスのモニタリングを行っている。	介護計画に沿った援助が必要です。ケアマネジャーと介護職員とが協議され、個々に合ったケアの実施記録ができるように様式も含め検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に計画作成の参考としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージなど有資格者が利用者様の希望により執り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この課題はまだまだ出来ていない事が多く今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には2週間に一度往診していただいているが、緊急時においては其の都度の対応をしていただいている。	月に2回、協力医が往診され全員が診察を受けている。歯科・眼科・整形外科へは、それぞれのかかりつけ医へ家族の協力で受診したり、職員が受診介助をしている。緊急時は協力医に報告して指示を受け、彦根市立病院に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配薬、一人ひとりの体調管理等をしっかりと把握し職員に適切な指示を与えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携医との連絡より紹介状にて入院、又緊急時の入院は看護師と相談員が対応。入院時にも情報交換をしっかりと行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については家族様の意向により出来る限り意向を聞けるよう万全な対策を考えている。ただし、地域の関係者とのチーム支援にまでは至っていない。	入所時に重度化したときの対応を確認している。過去に施設で看取りを実施している。家族の泊まりや職員のシフトを組んで対応した。終末期ケアについて職員研修を計画しており、資料を準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応は管理者、施設長が常に対応出来るように待機している。又、職員全員に携帯を持たせ緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は出来ているが地域の協力体制までは出来ていないのが現状である。	避難誘導訓練・防火訓練は消防署の指導のもとで実施した。しかし、地域住民の参加や協力体制は整っていないことを課題として捉えている。	特に夜間や災害時には、地域住民の協力が必要である。運営推進会議に消防署の参加を得て意見を聞くことや、近隣の住民への協力要請・参加を得て訓練が実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様に尊敬の気持ちを持って接している。	日々のケア場面での言葉かけ・態度で気づいた都度話し合い、ミーティングで共有している。守秘義務については、入職時に説明している。利用者への接し方から尊敬の態度が汲みとれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇がしたい」、「家に帰りたい」等様々な要望に全て応える訳にはいかないが、怒られる事がないよう言葉掛を行い納得していただく。出来る事はして頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事等一人ひとりの意思に添った介護を目指しており希望に添って支援出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に美容師に来てもらい、利用者様の意向でカットなど行っている。又、日々のオシャレは利用者様の意向に合わせてお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イスに座って出来る事は手伝って頂き、配膳等の後片付けは出来る限り利用者様に行っていただいている。今後はそう少し取り組んでいただけるよう努力する。	食事のメニューは、希望を取り入れるようにしている。居間横の台所で調理されており、匂いが食欲をそそる。季節料理は月1回提供し、行事食の他に、花見に出かけるとき等は、弁当やレストランを利用するなど気分転換も図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日記入しており、水分量の摂取については特に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は利用者に応じて職員が手助けを行う。入れ歯洗浄は当然毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日のリズムの中で排泄の声かけを行い、自分で排泄自立が出来るよう援助を行っている。	自分でトイレに行かれる時は、さりげなくも守り、昼間はリハビリパンツを使用してトイレ介助している。さりげない言葉かけでトイレ介助されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動は10時と昼食前に行い、前日の便の状態も含めその日の状態により服薬処方を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その通りの事が出来ている。一応の入浴日は決めているが、本人の意向で決めている。	入浴は隔日に実施されており、14時～17時頃までの間で、希望に合わせて入浴されている。個別入浴となっている。また、希望により夜間の入浴支援も心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により休息が必要と思われる方については言葉掛けにより休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師だけでなく職員が2重チェックを行い、薬について知ることによって誤飲、誤薬、副作用について知るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かし、オヤツ等で楽しんでいただいているが、気分転換については課題が残る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	届けを提出して頂ければ何時でも外出・外泊は出来る。散歩や買い物などはその日の体調に応じて職員と一緒に出かける。	近くに散歩したり、買い物の希望に応じて同行している。家族の希望で外出されている。彦根城まつり・紅葉狩り・世界のラン展・盆梅展へ年4回、全員で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額に関しては自己管理もしていただいている。基本的には本人様がお金を使われることはなく、施設が立替で月末に請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り家庭の雰囲気を保ち生活していただけるよう工夫している。	玄関・居間・台所・浴室・畳の居間・掘炬燵など、普通の家を感じさせる空間で、入居者は、スーツに靴姿の人・思い思いの服装で、居室に集まって来られた雰囲気がある。クリスマスツリーが時期を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所にソファを置き、ゆったりとした中で楽しんで過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にご本人様の持ち物は家庭から用意していただき、過ごしやすい環境作りに心掛けています。	布団は個人の物・テレビを置いている利用者・持ち込みは自由にされている。クローゼット内に衣類等は収納されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全工夫はしているが、「できること」「わかること」を活かしているかは、疑問が残る。		